

第2回

宮城県における復興祈念公園基本構想

検討調査有識者委員会 資料

【市民フォーラムの概要】

平成25年12月10日



国土交通省 東北地方整備局 建政部

石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える 市民フォーラム

- 10月20日(日)に石巻市にて開催
- 涌井委員長の基調講演、古藤野委員、松村委員のワークショップ報告のほか、上記3名に加え、森山副委員長が参加したパネルディスカッションを実施
- 参加者は約130名
- パネルディスカッションでは、参加者から事前に意見を提出いただき、それを活用して会場との意見交換を行った



パネルディスカッションの開催状況

入場
無料
定員 200名

石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える

日時:10月20日(日)
15:00~17:00
(開場14:30)

会場:石巻グランドホテル

○みらいの公園づくりワークショップの様子(平成25年2月)

現在、国・宮城県・石巻市が連携し、石巻市南浜地区において東日本大震災の犠牲者への追悼と鎮魂や、日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的とした、復興の象徴となる復興祈念公園の構想づくりを進めています。その一環として、市民・県民の皆様と公園づくりのあり方をともに考えるために市民フォーラムを開催します。

◎基調講演
 「宮城県における復興祈念公園について」
 涌井 史郎 (Shiro Wakui)
 造園家・ランドスケープアーキテクト
 1945年神奈川県鎌倉市生まれ。東京都大学環境情報学部教授。多摩田園都市などのまちづくり、ハウステンボスなどの計画、農村・水源地域の活性化などを手がける。
 「愛・地球博」(2005年)会場演出総合プロデューサー、国連生物多様性の10年委員会委員長代理、首都高大规模改修検討委員長などを歴任。
 著書は、NHK「景観からみた日本の心」、三省堂「奇跡の一本松」等多数

◎ワークショップ報告
 「みらいの公園づくりワークショップ」(石巻市にて平成24年12月から25年2月にかけて5回開催)
 参加者の古藤野靖氏、松村豪太氏より報告

◎パネルディスカッション
 涌井 史郎 (東京都大学環境学部 教授)
 森山 雅幸 (宮城大学 副学長)
 古藤野 靖 (いのちの森をつくる会 会長)
 松村 豪太 (一般財団法人 ISHINOMAKI2.0 代表理事)

主催 国土交通省・宮城県・石巻市
 後援 仙台経済圏人財育成協議会東北支部

E-mail info_ishinomaki@ohba.co.jp
 事務局 〒一〇三〇 石巻市設計共同体 石巻市事務所内
 電話 0225-93-7447 FAX 0225-93-1961

開催案内

「宮城県における復興祈念公園について」 東京都市大学環境学部教授 涌井委員長

- 東北の人々には災害を克服する**克災**という精神が根付いている。古くから災害を克服し、地域を愛し、自然と共生してきた人々の姿を我々は学ばなければならない。
- これからの地域の復興は単なる社会資本の増強ではなく、**自然を資本財と捉え**それをどう活かしていくかということを考える必要がある。
- この復興祈念公園は、「**克災の精神を高揚する場**」、「**持続的未来のための自然との共生をモデル化した空間**」として構想されるべき。
- 公園には大きな力があるが、この復興祈念公園にはどんな意味があるか。悲しみと鎮魂の思いを乗り越えて、それを未来につなげていくことが非常に重要。
- 石巻に公園ができる価値をどう具体化できるか。復興祈念公園が先導する**地域活性化へのレバレッジ効果**について考えていく必要がある。
- 我々は鎮魂から未来への誓いへと進んでいく。
その未来への誓いとは、**地域愛を核にしたコミュニティ**を大切に、**公園力**を使って元気な地域をつくるということ。これが今問われている。



基調講演の開催状況

「みらいの公園づくりワークショップの結果について」 古藤野委員 松村委員より報告

○平成24年度に石巻市で開催されたワークショップについて報告、会場内にはワークショップで子どもたちが作成した「宣言書」も展示した



ワークショップ報告の開催状況



会場に展示された「宣言書」

○上記のワークショップ報告にあわせ、地元NPOが「南浜・門脇未来まちづくりワークショップ」にて市内の小中高生と作成した公園の模型を会場に展示



市内の小中高生が作成した公園の模型

『未来の復興祈念公園のコンセプトとは』

森山: 様々な方が足を運ぶことで、地域の復興への**思いやエネルギー**、**新たな産業やコミュニティ**の誕生などを感じながら過ごすことのできる公園となることを望む

『石巻にとってどのような公園がのぞましいか』

松村: 住民だけの癒し・祈りにとどまらず、**未来につながる新しいモデル**をつくることも大切

『なぜ公園が必要なのか』

会場: 「なぜ公園なのか、地域の発展が優先ではないか」

森山: その**土地そのものを大事にする**のが公園の役割、地域にとって大切な場所である南浜は公園にふさわしい

涌井: さらに**経済発展**ではなく**心豊かな幸せ**を築くことが大切

古藤野: 町の活性化のために頑張っていく上できれいで**心の落ちつく場所**も必要

『どのような公園の姿を考えていくか』

会場: 「**地域の人が使え**る場所としたい」、「**観光資源**ともなる公園としたい」、「**東京オリンピックと連携**した公園づくりが必要」 など

涌井: 世界では美しく清潔で生態的な配慮が行き届いているところに産業が集結する傾向がある、そういう意味では**公園には無限の力**がある

『どのような公園の姿を考えていくか』

会場:「**多くの方の魂が眠る場所**で楽しむ・騒ぐといったことは避けてほしい」、「**祈りの場、正確な記録、減災・防災が必要**」、「**命が輝く場**になれば良い」、「**心に一番の力点**をおいてほしい」など

古藤野:亡くなられた方の命を思い続ける、私たちが力強く生きている姿を子ども達の命につなげていく、そんな**命を考えられる公園**にできればと思う

『どのように公園と関わるか』

会場:「市民参加の**マネジメントのあり方**をしっかりと考える必要がある」、「震災で折れた**心を蘇らせる**ためにも公園への関わりということを組み入れてほしい」など

涌井:阪神淡路大震災の際には花や野菜を育てることが**PTSDの解消**につながった事例もある、そういうことにも役立つのであればこの公園は非常に意味がある

『パネルディスカッションのまとめ』

涌井:この公園は共通の解に向かって全員が一つになり動いていくきっかけとなる場所
その解とは、「**犠牲者への鎮魂の思い**」をベースに、「**石巻の復興**」を誓い、その誓いの中から「**持続的な未来への戦略**」を発見していく ということ

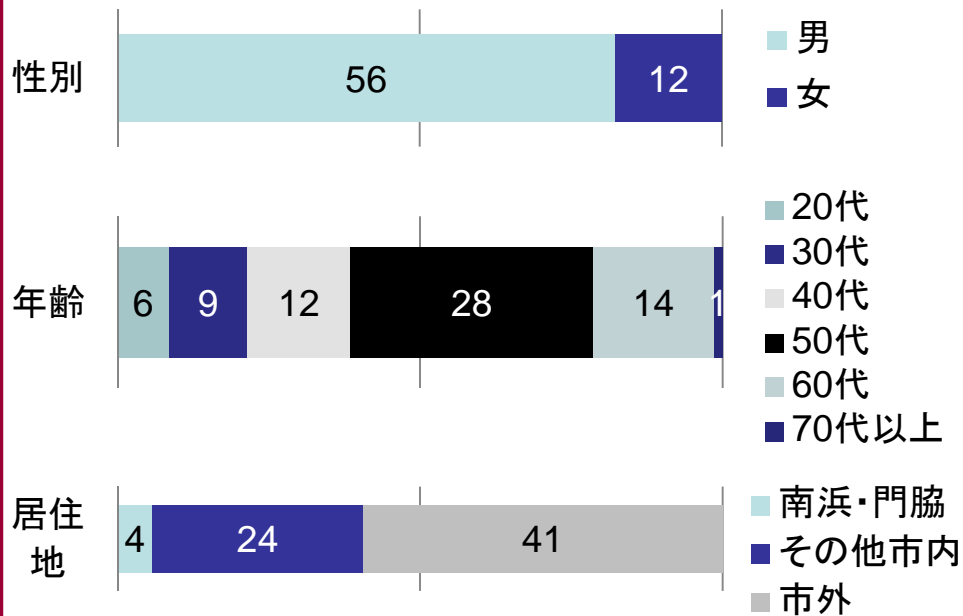
5. 閉会あいさつ 石巻市 亀山市長

- この公園は単に石巻だけのための公園ではない、**被災地域間のネットワーク**をつくりながら地域の連携をとっていくことが非常に重要な視点と考えている
- 今後も色々な機会を通じ、皆様のご意見を伺っていきたい

(アンケート結果の概要)

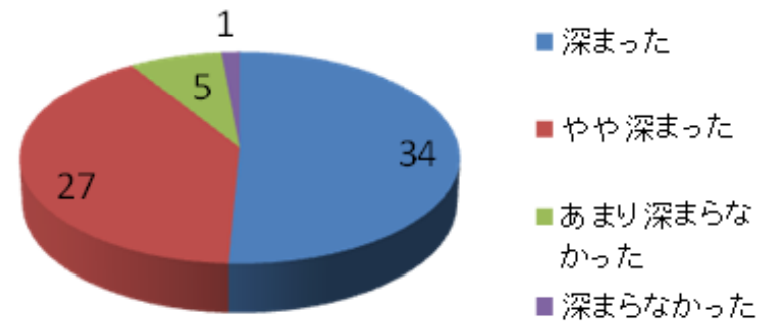
- 会場にてアンケートを配布 参加130名のうち、70名の方から回答を頂いた
- アンケートを頂いた多数の方から「復興祈念公園への理解が深まった」、「市民フォーラムの内容に満足」という回答を頂いた

●参加者の属性

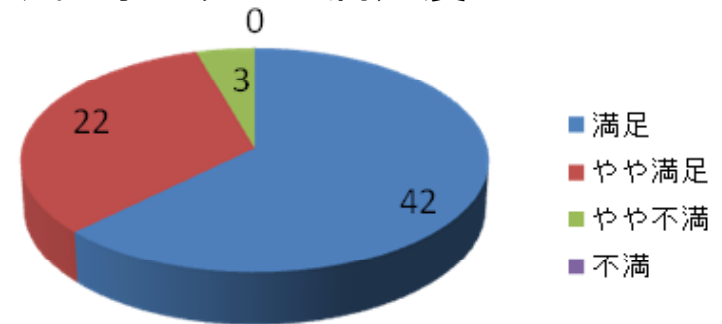


※居住地は震災前の居住地とした

●復興祈念公園への理解



●市民フォーラムの満足度



○自由回答として「復興祈念公園にどのような機能・施設があるとよいか」、「復興祈念公園の計画づくりはどうあるべきか」の2点を質問

○求める機能・施設については、主に「**追悼と鎮魂**」、「**教訓の伝承**」、「**復興の祈念**」に関わる意見がみられた

(**追悼と鎮魂**について)

- 「鎮魂の鐘がなる公園」、「鎮魂の記念碑」、「祈りの場として特別な施設は不要」 など

(**教訓の伝承**について)

- 「震災を語り継ぐ施設」、「こどもたちが学べる施設」、「体験ミュージアム」 など

(**復興の祈念**について)

- 「人と人が出会える場」、「新たなモデルとなる公園」、「観光施設」、「スポーツ施設」 など

(その他の自由意見)

- 「家族連れや老夫婦が集える区画」、「子どもの遊び場」などの**日常利用**に関する意見
- 「津波の減勢機能」、「震災時の避難場所」などの**防災機能**に関する意見

○計画づくりについては「**計画づくりや管理運営への市民参画**」に関わる意見がみられた

(主な自由意見)

- 「地域の声を活かしてほしい」、「何度も話しあう場面を作ってほしい」 など
- 「市民が主体の公園づくり」、「市民が維持管理に関われる仕組みづくり」 など